



4月から幼稚園に通う長男と、8月に生まれた次男です。妻とは、家族みんなと一緒にいることが何よりも大切という価値観を共有していて、単身赴任という選択はしませんでした。育休の取得も考えましたが、給料の面で私一人では生計を立てられないので諦めました。



効果的な時間の使い方をする事で 家族との時間を大切にしています

教員と地域社会(市民)をつなげ 文科省の政策の謎を探る

人文・理・工・農・繊維学部の学生の教職課程の授業を主に担当しています。専門分野は教育行政学。「教育に関するヒト・モノ・カネ」の研究です。例えば、教員の働き方(給料、手当、勤務時間、共済等の身分・待遇)、国と地方、教育委員会と学校、地域社会、公私立学校の関係のあり方等、教育活動を支える環境・条件整備の研究をしています。教育界は閉鎖的と言われがちなので、学校現場の実態と地域社会の眼差しの架け橋になりたい。そのために教職員の研修や教育委員会が直面する課題解決の支援、地域での講演活動等もしています。

また「オーラル・ヒストリー」という探偵のような仕事もしています。簡単に言えば当事者の記憶を記録化する作業。なぜゆとり教育が進められたか、教員は自治体(市役所等)職員と身分・待遇が異なるのか、そして日本の教育はどこへ向かっているのか。教育は市民に身近でありながら教育政策となると不可解な点も少なくありません。そこで政策形成に関与した文科省や教育団体、マスコミ関係者等へのヒアリングを重ね、政策形成の経緯を探っています。1つの政策に2~3年要することもあります。こうした作業を蓄積して初めて政策の総合的評価ができると思っています。

研究者=教育者 学生との距離感も大切に

教育者として意識していることは、今自分がどう生きて、学生に何を伝えられてい

るのか。教職に関心がある学生からは、教育者としての私の生き方も問われていると感じるんですね。だから教員の仕事の魅力だけでなく、多忙化が指摘される実態も伝えていきます。人間は学びを止めたら退化するので、私自身、子育ての大変さを授業で話し、自分ならどうするか学生の考えを聞くこともあります。大切にしているのは学生との距離感。授業では毎回リアクションペーパーを提出してもらい、授業の質問や論点だけでなく、悩み相談等もフィードバックしています。一緒に食事に行くこともあります。

家庭ではふたりの息子と妻との4人暮らし。長男が生まれた時は、母乳があげられないストレスや寝かしつけの苦勞で「産後うつ」のような状態に陥りましたが、ふたり目ではだいぶおおらかに子育てができています。妻は今授乳中なので、私もお酒やカフェインは控えていますよ。

効果的な仕事で作り出す 家庭(子育て)の時間

家事は、料理以外は積極的にサポートしています。「裁量労働制」という働き方の利点を生かし、子どもと一緒に遊んだり、掃除や洗濯、予防接種や病院の診察、幼稚園の体験教室にも参加しています。入園後も園の行事にはできるだけ参加したいですね。また、子どもをお風呂に入れるなどスキンシップを大切にしている、基本的には朝7時に出勤し、早い時は18時に帰宅しています。

結婚前は研究に没頭し、まるで妻の「ヒモ」のような生活。昼夜が逆転していましたが、今は1日で必要な時間をあらかじめ天引きし、

それ以外の時間で教育と研究を完結するよう意識しています。大切なのは「効率」ではなく「効果的」な仕事。特にふたり目が生まれてからは時間の使い方を考え、集中して仕事をしています。状況を理解してくれる同僚の先生方には本当に感謝しています。

また大学では、能力があっても女性が正當に評価されてこなかった歴史があったように思い、女性研究者は心身ともに大変な毎日を送っていると感じています。これからは「キャリア=職業」ではなく、家庭や仕事、地域社会、趣味など、その個人を特徴付ける立場・役割を全て含め、広い意味でキャリアを捉えるべきです。これを実現するためには、職場での意識改革と積極的な環境整備が必要ですね。



生活の必需品

文房具類



仕事をする上での道具には徹底的にこだわっています。オーラル・ヒストリーに使うレコーダーも状況に応じて4種類を使い分けるなど、仕事の「効果」を上げるという観点で選んでいます。いつか「文房具概論」や「知のツール・スキルズ」という授業をやりたいですね。

多忙な日本の教員 学校体制を変えたい

荒井英治郎

Eijiro Arai

全学教育機構・准教授

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2009年4月より信州大学へ。全学教育機構講師を経て、2012年10月全学教育機構准教授。

Message to Students!

学生時代にさまざまな経験を積むことで酸いも甘いも感じ、自分はどんな時に喜びや悲しみを感ずるのか、そして苦しい時には何をすることで普段の自分に戻ることができるのか、セルフ・コントロールの方法を学んでほしいです。友達と話す、音楽を聴く、買い物をする、料理をする、本を読む、一人の時間を大切にするなど、そこに「唯一の解」はありません。社会人になってから見つけるのは難しいので、ぜひ学生時代に模索してください。また、教員志望の学生に特に伝えたいのは、教員は教職経験を積み重ねるほど、自分の考え方に疑問を抱かなくなる傾向があるということです。広い視野を持つためにも、物事の現状や前提を疑うトレーニングを積むとともに、教職志望ではない友人も作っておいてください。大学生活はあっという間です。Time is Life! (時は人生なり) の精神で、自分の引き出しを増やし、アンテナ感度を高めておくことが大切です。